

来週の市場とレート予想

	4/2(月)	4/3(火)	4/4(水)	4/5(木)	4/6(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 900	+ 1,000	+ 1,000	トシ	トシ
財政他	△ 6,100	△ 6,000	△ 6,000	△ 29,000	+ 6,000
資金需給	△ 5,200	△ 5,000	△ 5,000	△ 29,000	+ 6,000
主な要因			消費税・法人税・保険揚げ 普通交付税	国庫短期証券発行・ 償還(3M) 国債発行(10Y)	
オペ期日	CP等買入 △ 100 共通担保(全店) △ 1,500 国債補充供給 + 3,100				
オベスタート	ETF買入 + 300 共通担保(全店) + 1,400	国債買入 + 10,300			
(日本)	全国企業短期経済観測調査 (3月短観、日銀) 国内新車販売台数(3月)	企業の物価見通し (3月短観、日銀) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	需給ギャップと潜在成長率(日銀)		毎月勤労統計(2月) 日銀営業毎旬報告 (3月31日現在)
(海外)	米 ISM製造業景況指数(3月)	米 NY連銀が新たな参照金利 (SOFR)を開始 米 ブレイナートFRB理事、講演 ユーロ圏 製造業PMI (3月、改定値)	米 ADP雇用統計(3月) 米 ISM非製造業景況指数(3月) 米 製造業受注(2月) 米 クーブランド連銀総裁、講演	米 週間新規失業保険申請件数 (31日終了週) 米 貿易収支(2月) 米 アトランタ連銀総裁、講演 ユーロ圏 サービス業・総合PMI (3月、改定値)	米 雇用統計(3月) 米 FRB議長、講演

【インターバンク市場】

<インターバンク>

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.060
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.120

日銀当座預金残高は週初、先週末対比3兆1,200億円増加の374兆100億円から始まり、その後も国債買入オペや年度末諸払い等により増加し、週末には378兆2,900億円となった。
無担保コールON物は先週同様弱い地合いが継続し、同加重平均金利は26~29日まで△0.066~△0.064%の狭いレンジで推移した。なお、年度末となる30日はさらにビッドが閑散となり、同金利は△0.068%に低下した。
ターム物では、期内物で△0.04%、4月スタートの1~2W物で△0.035~△0.03%の出合いが散見された。
日銀は30日、4月の長期国債等の買入れの運営について前月から据え置き方針を公表した。
来週は国内では2日に日銀短観(3月調査)、3日に日銀短観(3月調査、企業物価見通し)、海外では6日にFRB議長講演、米雇用統計の発表が予定されている。

【オープン市場】

<CP>

CP3M(a-1+)	マイナス ~ 0.000
TDB 3M	△0.180 ~ △0.130
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

今週の入札発行総額は約1兆6,000億円で、週間償還総額の約4兆2,000億円から減少した。月末スタートは大型案件もあって6,200億円程度の発行があったが、約3兆6,500億円の償還に対し大幅な償還超。期末の発行残高は、13兆6,000億円程度になった模様(前年同月:13兆961億円)。発行レートは、ディーラーや投資家の在庫確保のニーズが強まり、全般的にマイナス圏内の出合い。一部銘柄では積極的な応礼も見られた。27日に、CP買入れオペが予定通り5,000億円度でオフア(3/30スタート)された。按分レートの事前予想では前回比低下を見込む向きもあったが、結果は△0.038%按分と前回比△0.005%上昇する結果となった。来週の償還総額は、期初償還が少なく約1,300億円となっている。一般事業法人の復活発行が見込まれるが、本格化するのには中旬以降と思われる。発行レートは、ディーラーや投資家のニーズが強く、引き続きマイナス~0%近辺の出合いを予想する。5日に、CP等買入オペが2,500億円程度度でオフアされる予定。

<TDB>

今週の国庫短期証券市場は、入札がなく四半期末ということもあり総じて閑散としていた。3M、6Mは△0.17%前後の気配であった。来週は3日と5日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.13%近辺から始まり、29日受渡しまで概ね△0.12%~△0.11%の出合い。四半期末越えとなる30日受渡しは、資金調達を手控える動きが顕著となり、S/Nは△0.65%~△0.45%の出合い。T/Nでは若干の上昇が見られたものの△0.55%~△0.30%の水準であった。4月受渡し以降は週初同様△0.13%近辺での推移となった。SC取引では、30日受渡しで全銘柄のレートが急落。△0.70%台~△0.60%台近辺が出合いの中心となった。カレント銘柄の5年135回債・10年350回債は、週末の国債買入れオペ後bidが増加、△0.20%近辺の取引が多く見られた。その他2年385・386回債、5年133・134回債、10年339・340・341・342・346・347・348・349回債、20年163・164回債、30年57・58回債、40年10回債等に引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。